



きらめく
まちビト

目黒峰子



日本洋装協会が主催する全日本洋装技能コンクールにおいて、昨年はフォーマル部門で「クチュール賞」を受賞、今年のカジュアル部門で「理事長賞」を受賞した目黒峰子さん。裁縫に関することや今後の目標についてインタビューしました。

やりたいと思えばすぐ始められる、それが「裁縫」です。

2年連続受賞の感想は

「試しに」という気持ちで出品してみたなら、このような賞をいただけたので、とてもうれしいです。この大会は、作るものや制作の期間が指定されないもので、自分がやりたいと思うものを、自分のやりたい時間に集中してできたので、良い結果になったのだと思います。

受賞会の雰囲気は
どう感じるのですか

2時間ぐらいのショー形式で、600人ほどの参加者がおられたと思います。モデルの方が、出品された作品を着て歩いているところ、アナウンサーの方が、特徴などを紹介してくれます。私はざらっと特徴を伝えていたところ、ほかの皆さんは素材や細部のことまで触れていて、作品に対する熱意を強く込められていて圧倒されました。もちろん作品自体もとても素晴らしなものが多いと思いました。
洋服などを作り始めたきっかけは

砂川の障がい者訓練校に通っていて、そこで「洋裁科」があったことが始まりだと思

ます。学校全体で、印刷科や木工科など職種ほどありませんでしたが、その中で「洋裁科」がなければ、やっていかなかったかもしれません。その後、卒業時に各科で一人選ばれる優良賞にも選んでもらえたり、深川の洋裁店の就職できたりしましたので、裁縫の関わりが長くありました。

裁縫してるときに
考えることは

服を縫うとき、背広や着物是一定のものが多いですが、洋服はデザインから生地まで全部違うものなので、結構大変なんです。ですので、基礎的なことですが、ただただ正確に1ミリのズレも妥協せず縫うことを心がけています。これは、出来上がりに結果としてあらわれます。

服のイメージはどのよう
に想像しているのですか

この大会で出品されたものや雑誌・テレビで見るものなど、目にしたものは気に留めて参考にしています。ですが、同じものを作っても面白くないので、作っている途中で自分のオリジナルを入れるようにしています。今回の作品

では、羽があるイメージで背中を特徴的に仕上げることでできました。

今後の目標は

もちろん「来年も」という意欲はありますが、生地などの素材や道具が、都会まで行かないと手に入らないです。名寄で入手できればいいなと思います、できる範囲で頑張っていきたいと思っています。

市民の皆さんにひびくこと

ファッションに興味がある方は、衣類を裁縫して作るということをやってみてほしいです。おそらく楽しみながらできると思いますし、自然と技術も身につけて、着なくなってしまう服をリメイクなどして再利用すると、眠っていた服も喜ぶと思います。

Profile

目黒 峰子 (めくろ みねこ)

昭和32年6月に美深町で生まれる。小学校入学前に名寄市に移住。その後、旭川の養護学校、深川の職業訓練校を卒業し、平成元年から名寄市役所で勤務。平成29年度末で定年退職。現在はゆっくりとした時間を家族で過ごしている。

きらめくまちビト…名寄市内で活躍する市民などの紹介を通して、地域の魅力を発信します。